



五年もの長期政権になった小泉政権、それに対する評価はさまざまだが、一つ確実なことは多くの分野で格差の拡大がはつきりと現れ、日本人が営々と積み上げてきた均質な社会が失われつつあることだろう。特に地方と都市部の格差拡大は次の世代に大きな禍根を残すのではないかと心配している。

格差の拡大で地方の力が落ちれば生徒の就職にも大きな影響が出てくるので、学校関係者にとっても深刻な問題である。加えて社会問題となっているニートの問題もこの格差拡大と大いなる関係があると思っている。

近年特に思うことは大学生の就職に関して圧倒的に新卒のみが対象である、ということである。既卒、特に就職浪人に対してはエントリーすらほとんどできない仕組みになっている。また

### 既卒と新卒～格差



草野 義輔

ニート対策が政府内でも検討されているが、わずか一、二年の就職浪人に対しても入り口が極めて小さくなるような現状はいかがなものかと思う。

もちろんニート対策はさまざま必要な要因があり解決は簡単ではないが、既卒を採用から締め出せばますますニート予備軍を作り出すことにもなる。

だが若年の既卒者がこれほど採用の機会から除外される現状は正常とは思えない。大学生は就職が未定の場合、わざわざ単位を落として本来なら卒業できるのにあえて留年する方を選ぶそうだし、大学もそ

(日田市昭和学園高校理事長)